

氏名	畑 智子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第105号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	子どもの入院時における説明に潜む小児看護の技

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	109	(ふりがな) 氏 名	はた ともこ 畑 智子
修士論文題目	子どもの入院時における説明に潜む小児看護の技		
目的：	<p>幼児後期の子どもの入院時に看護師がしている入院生活の説明の中に潜む小児看護の技を明らかにする。</p>		
方法：	<p>半構成的面接法を用いてデータ収集を用いた質的帰納的研究である。</p>		
結果：	<p>4つの上位カテゴリー、20の中位カテゴリー、71の下位カテゴリーを抽出した。上位カテゴリーは、【子どもに伝える手段を選択する技】、【子どもへのアプローチを見極める技】、【子どもへのアプローチをする技】、【子どもの緊張を緩める技】であった。</p>		
考察：	<p>【子どもに伝える手段を選択する技】は、子どもに、「いつ」、「どこで」、「誰が」、「どのように」伝えるかを選択した技で、子どもにわかるよう〔言葉を使い分け〕ながら、伝える〔場の設定を〕し、〔伝える媒体を考慮〕し、現実的にわかりやすく伝えていた。また、子どもが安心できるよう〔伝える人を選択〕し、〔伝える時機を検討〕していた。【子どもへのアプローチを見極める技】では、子どもにアプローチをするために、子どもの〔病状〕、〔理解力〕、〔思い〕、〔特徴〕、〔言動〕から判断していた。さらに、〔母親から情報を得て判断〕したり、〔親子関係から判断〕していた。【子どもへのアプローチをする技】では、看護師は《挨拶》や《自己紹介》をして〔きっかけをつく〕り、子どもと《一緒に遊》んだり、《スキンシップをはか》って子どもとの距離を縮めていた。また、《看護師への興味を読》んで〔距離をはか〕り、子どもの関心が看護師に向かなければ《一時退散》して〔距離を持〕っていた。【子どもの緊張を緩める技】は、子どもに《楽しみをつく》ったり、《身近な話題》で話しかけながら〔緊張感をほぐ〕していた。《母親の不安を緩和》することで子どもの〔緊張感をほぐ〕していた。子どもを《褒め》たり、《ねぎら》ったり、《子どものそばに》いたり、《母親と離さな》かったり、《母親と仲良く》して子どもを〔安心させ〕ていた。子どもの〔思いに添〕い、子どもの《希望を取り入れ》、子どもが看護師の話を聞こうとしなければ、《無理強いしな》かった。〔子どもの怖さを取り除く〕ため、子どもにエプロンやシールを見せたり、折り紙の動物などで《気を紛らわ》していた。</p>		
総括：	<p>子どもの入院時の看護師の説明に潜む技には【子どもに伝える手段を選択する技】、【子どもへのアプローチを見極める技】、【子どもへのアプローチをする技】、【子どもの緊張を緩める技】の4つの技があった。今後①子どもの入院時には、これら4つの技を併用しながら、入院生活について説明し、子どもの入院への適応をはかること、②これら4つの技を用い、子どもに入院時の説明をし、その子どもの反応を丁寧に観察、記録し、評価を積み重ねていくこと、が必要である。</p>		

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。